

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第643号 2023年9月10日

聖母の被昇天ミサ

8月15日（火）11時30分から聖堂で聖母の被昇天ミサが、ラファエル梅村昌弘司教主司式、鈴木真主任司祭、ダリル・ディニョ助任司祭の共同司式により執り行われました。ウィークデーにもかかわらず多くの信徒が参加し、最後に「平和を願う祈り～アシジの聖フランシスコの祈りより～」を全員で心を合わせて祈りました。

梅村司教は説教で「『神さまを信じ、みずからのすべてをもって父である神さまにわたしを委ねます』という姿勢が大切です」と話されました。



派遣の祝福



共同司式

(編集部 土方芳人)

鈴木真主任司祭 主日ミサ説教

2023年5月28日 聖霊降臨の主日 A年
ヨハネ福音書 20章19-23節

「聖霊」…それは神さまから常にわたしたちに臨んでいる、はたらきかけの力です。

ヘブライ語で「ルーア」、ギリシャ語で「プネウマ」…いずれも「息」や「風」を意味する言葉だそうです。例えば、旧約聖書の創世記には、神さまが人の形の土に息を吹きかけると、人は生きるものとなった…とあります。つまり、人を生かし、そして、動かす力、それが「聖霊」のはたらきと言ってもいいでしょう。

復活されたキリストに出会った弟子たちは、特別な神さまからの力が自分たちにはたらいていることを感じ、そして、それを体験しました。言い換えれば、それは、自分たちを通して神ご自身がはたらかされている、という体験、というか悟りだった、と言ってもいいかもしれません。第1朗読で読まれた『使徒言行録』にある「聖霊降臨」は、少し派手な感じもしますが、根底には、そのような弟子たちの体験があったと言えますし、何よりも大きなポイントは、それによって弟子たちが「宣教」を始めた、ということです。そして、それを聖書が「教会の誕生」と位置付けていることでしょう。

そして、きょう、神さまによって呼び集められたわたしたち一人ひとりにも、同じ聖霊が臨み、使徒たちと同じく宣教という使命が与えられている…

それは「自分が」何かをするのではなく、わたしたちを通して「神さまが」はたらかれることに他なりません。

今年も聖霊降臨の主日を祝う中で、そのような聖霊のはたらきに、共に目を向けたい、と思います。